



おおといっ子 No.3

平成 28 年 5 月 26 日 発行

私の好きな先生の中に板倉聖宣先生がいます。板倉先生の本にはいろいろな示唆を与えてもらえます。その中の一つを紹介します。

学力と意欲の関係について教育効果は、足し算で決まるかかけ算で決まるか。それを式にすると

$$\langle \text{学校教育の効果} \rangle = \text{学力} + \text{意欲} \dots \text{①}$$

$$\langle \text{学校教育の効果} \rangle = \text{学力} \times \text{意欲} \dots \text{②}$$

①だと、例え意欲が0でも、学力だけで効果はあります。しかし、②だと学力があっても意欲が0だと効果はないことになります。私は②だと思っています。たとえ、学力だけがあっても意欲、つまり物事に対する興味関心、挑戦する心がなければ社会に出てもあまり役に立たないと思うからです。

また、学力と意欲の関係はどうでしょう。案外、学力が高まることにより意欲も高まり、意欲が高まることにより学力も高まるのではないのでしょうか。

全日本バレー女子チームの中に専属アナリストがいるそうです。

「チームが勝つために、数字で応えたいと思うようになった。意識しすぎるとプレーが窮屈になるから、何本までならミスしていいとプラスにとらえた」そうです。そして、モチベーションポスターをつくり、その日の練習状況を見てどんな言葉を投げかけるのがチームにとって効果的かを考え、その言葉を入れた写真ポスターをつくり、貼り出したそうです。つらい練習でもそれをポジティブに受け取ってもらうために。

その結果はみなさんご存じと思います。(粘りの試合を続け、オリンピック出場権獲得)

学力や技を高めようとしても、そこに心がなければ成長することはできません。心を育てるには体験が必要です。普段の生活の基盤が必要です。それは、自分が愛されているという実感かもしれません。子供たちが自分の可能性に自信をもち、前向きに過ごせるように今後も努力を続け、支援していきたいものです。ご協力よろしくお願いします。

モチベーションポスターにあったいくつかの言葉を紹介します。

「風が一番高く上がるのは 風に向かっていているときである。風に流されている時ではない。」

—ウィンストン・チャーチル—

「小さな事を重ねることが とんでもないところに行く ただひとつの道」

—イチロー—

「チャレンジして失敗することを恐れるよりも、なにもしないことを恐れる」

—本田宗一郎—

「守ろう、守ろうとすると後ろ向きになる。守りたければ攻めなければいけない。」

—羽生善治—

素敵な写真と一緒にあるのですが、それが紹介できなくて残念です。

家庭（親）の出番

ある学校でのことです。子供たちの中でゲームが流行りだし、ゲームを持っていない子供が親に言いました。「僕だけゲームを持っていない。みんな持っていて、仲間外れにされている。」

それを聞いて驚いた親は、その後どうしたでしょう。

ア 自分の子供だけが持っていないのはかわいそうだから、すぐに購入した。

イ 我が家ではゲームを購入しない方針だから、それを伝え、我慢させた。

ウ みんなって誰？と名前を言わせ、本当にみんなが持っているのか確認した。

エ 自分の子だけ我慢させるのはかわいそうだから、学校でゲームを禁止して欲しいと伝えた。

オ その他

各家庭、考えや対応は様々だと思います。

アの対応は、誰もがまずいと思うでしょう。子供からの情報だけでは、正確な事実とは言えないからです。すぐに高額のを買い与えるのはどうかと思います。

イの対応では、我慢だけさせるとなると子供もつらい思いをするかもしれません。なぜ、ゲームを購入しないのかを子供に理解できるように伝える必要があります。親として、子供の健やかな成長を願ってのことで、ゲームがなくても満足な生活であれば、問題ありません。

ウの対応は意外と必要なことです。子供が「みんな」と言うと、本当に子供の周りの数人だけのことを指している場合があるからです。「みんな」という言葉には気を付けましょう。

エはどうでしょう。ゲームを購入するのは親です。学校が購入するわけではありません。でも、それで人間関係を壊したり、言葉遣いが悪くなったり、生活態度や学習態度が乱れたりし、学校生活への影響が大きいと判断した場合は問題提起しなければなりません。本来、第一義的責任は家庭にあるのです。これは、ゲームだけでなくスマホ、キックボード、自転車乗り等でも言えます。

オの中には「仲間外れ」という言葉に反応し、いじめがある。自分の子供がいじめられているのではと不安に思われる方もいるでしょう。これは、大切なことです。しっかりと事実を確認する必要があります。

では、実際その方はどうしたでしょう。まず、子供の友達の子にすぐに連絡をとり事実確認をしたようです。何人かがゲームを持っていることが分かりました。次にゲームを利用している家庭のきまりについても聞きました。あまり、決まりを決めておらず、決めたとしても守っていないようでした。「CERO」の年齢区分マークも無視しているようです。それで、結局ゲームを買わない事に決めました。ゲームは高額であることもありますが、友達関係を悪くする場合もあり、自分の子供は夢中になって勉強もおろそかになるリスクの方が高いと思ったからです。また、子供と一緒に話し合うとゲームでは「ただ楽しい」、「友達と同じ事をしたい」「一人だけ持っていないのは嫌だ」というだけで、あまり良いこと、ためになることが見付からなかったのです。

これは正しいことかどうかは分かりません。でも、家庭で納得して子供のためとなることを一緒に考え、各家庭での子供の見守り方を決めることは大切なことではないでしょうか。また、親仲間同士で何でも言い合える関係を築くことも大切です。平米小学校でもこれからも保護者同士仲良く気軽に情報交換しながら、学校と共に子供たちを見守っていかれたらと思います。



ふれあいクラブではたくさんの講師の方にお世話になっています。